

# 令和5年度 事業報告

## [法人・北海道博愛舎・ニュー北海道博愛舎・グループホーム紅愛の運営]

- ・新型コロナウイルスの感染症については、令和5年春に5類に移行し、社会全体が徐々に通常に動き出し、落ち着いてきたが、当法人は、利用者・職員に対するワクチン接種を継続し、施設内独自の感染予防対策の徹底を図った。
- ・職場環境の整備として、B型事業所の大型乾燥機を購入し、作業効率が向上したことや北海道の補助金事業を活用し暑さ対策に向けた検討として、施設全体に係る雪冷房設備の「設計」が終了し、令和6年度は、導入に向けた申請を行う予定である。
- ・障害福祉制度のICT導入支援事業補助金を利用し、タブレット3台購入した。
- ・2025年にアナログ回線の廃止やインボイス制度に対応するため、施設内電話機を全てデジタル回線に交換、また施設内PCの23台に新たに文書管理システムを導入し、デジタル化を図り、電子帳簿対応や大幅なペーパーレス化を進めることで、情報や文章の連携がよりスムーズになり、事務作業・文書管理の簡素化・効率化は可能となった。
- ・業務継続計画（BCP）の策定は、感染症・災害対策の計画書等を策定し、更に洪水時の避難確保計画も策定した。なお、令和6年度では、職員研修や訓練等を実施し、利用者・職員の健康と安全を守るため、非常災害時の対応について、平時から準備すよう取り組む。
- ・利用者の確保については、市町村・相談支援事業所等や高等養護学校との連携を強め、施設内実習の受入れも実施するなどして、利用希望者の情報収集や勧誘に努めてきたが定員割れが続いている。

## [就労支援事業・利用者工賃実績]

- ・就労継続支援B型事業は、新型コロナウイルス感染症も落ち着き、社会全体が通常に動き出したことや各事業所の単価アップ・新規開拓などにより増収となったことは評価できる。  
また、年間平均月額工賃45,000円以上となった。

## [施設の改修]

- ・作業の効率化を図り、大型乾燥機の入替を行った。  
ICT導入補助金事業を活用し、タブレット端末3台を導入した。  
電子帳簿対応・ペーパーレス化・事務作業・文書管理の簡素化・効率化を図るため、文書管理システムを導入した。  
既存品の不良のため、厨房室のエアコン交換工事を行った。  
施設老朽化に伴い、ボイラー修繕、受水槽修繕、浄化槽ブロー取替、厨房器材交換、建物修繕等の工事を行った。  
経年老朽化のため、非常用発電機負荷切替器取替修繕工事を行った。

## [北海道博愛舎・ニュー北海道博愛舎 利用者の状況と対応]

両施設の利用者の高齢化、障害の重度化が顕著となっている。  
市町村や相談支援事業等の連携を取りながら、利用希望者の情報収集や勧誘に努めている。  
今年度北海道博愛舎は、増減なし。  
ニュー北海道博愛舎は新規入所1名、退所2名で1名減員した。  
グループホーム紅愛は、増減なし。  
給付費全体としては、前年度と比較して約196万円の減額となった。

## [行事实施状況]

年月	行事内容
R5 4月	日赤献血
	新型コロナワクチン接種6回目
7月	夕張市農協青年部メロン贈呈
8月	焼き肉パーティー 定期健康診断 ふれあい祭り（ライフネット合同）
10月	インフルエンザワクチン接種 日赤献血
11月	新型コロナワクチン接種7回目 森農園「長芋」贈呈
12月	利用者忘年会 歳末助け合い募金・赤い羽根募金
R6 1月	利用者新年会
2月	避難訓練
3月	定期健康診断 避難訓練（2回目）
その他	毎月第3水曜日 利用者誕生会 毎月第3・4日曜日 利用者理容日

## [職員研修実施状況]

年月	研修内容	参加数
R5 4月	新型コロナウイルス感染症5類に係る施設説明会及び感染症研修会	2名
5月	空知圏域就労支援事業所連絡会議	1名
7月	虐待防止研修会	12名
10月	北海道身体障害者授産連絡協議会	6名
	施設長及び職員研修会（1泊2日） 身体障害者福祉施設研修会及び小樽障害施設見学	5名
	新任職員研修会（1回目） 新任職員研修会（2回目）	3名 3名
11月	集団指導及び感染症研修会 クリーニング師講習第2型（通信制）	4名 3名
R6 1月	北海道障がい者虐待防止・権利擁護研修	4名
3月	業務継続計画（BCP）・避難確保計画研修会	全員